

	発行者の略号	東書	大修館
	書名	新編 新しい保健体育	最新 中学校保健体育
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための課題解決的な紙面構成、QRコンテンツによる学びの深化など、これらの工夫をもとに「新しい時代の新しい学びを実現するために」を目指し編集されている。	3つの資質・能力をバランスよく踏まえ、様々な変化に積極的に向き合い、多様性を尊重し、他者と協働して課題を解決していくための確かな力を身につけることを目指して編集されている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①各章末の「章末資料」の中の「章末問題」で、知識の習得状況を確認できる。保健技能に関する実習ページでは、豊富なイラストや写真を用いて手順が分かりやすく示している。また、技能を映像で確認できるデジタルコンテンツがある。 ②各単元に「思考力・判断力・表現力等」の育成につながる発問が設定されており、課題解決に向けた取り組みができるように配慮している。 ③自分の内面と向き合う活動や生徒の思い込みに揺さぶりをかける発問が掲載されている。また、データなどの資料から、実際におきた事例について分析、検討することができる。	①学習を進めるにあたってポイントとなる重要語句が「キーワード」にまとめられ、文章中では太字で示している。学習の習熟度を確認するため、内容ごとには「保体クイズ」、各章のまとめでは3観点ごとに分かれた設問が設けられている。 ②各項目の冒頭に、生徒の関心や学習意欲を引き出し、気づきや思考を促す導入発問「課題をつかむ」を設けている。 ③保健と体育を関連させた話題を掲載し、自分ごととして捉えることができる。また、学んだことを生かして、日常生活や社会の中にある課題を考える活動も掲載されている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね内容をふまえている。	概ね内容をふまえている。
	（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「課題の解決」では、内容のまとめりごとに「発問」が設けられ、資料などを主体的に読み解き理解できるように配慮している。 ②「他教科リンク」を設け、他教科の学習内容との関連を簡潔に示し、教科相互の関連を図り、系統的、発展的な指導を行うことができるように配慮している。 ③対話的な学習を導くような発問が多く設けられている。また、「活用する」や「広げる」の活動を通して、コミュニケーション能力が育成されるように配慮している。 ④各章の冒頭や章末に視覚資料とともに情報を掲載し、伝統文化について学習しやすいように工夫している。 ⑤保健の技能に関するページは、イラストや写真を用いて手順が分かりやすく示されている。QRコンテンツを用意し、動画で知識・技能を確認することができるようになっている。また、学習内容に沿った思考ツールができるようになっている。 ⑥各章の扉では、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを明示し、系統性のある指導ができるように配慮している。 ⑦QRコンテンツにより、動画を視聴したり、シミュレーションができるようになっているため、授業だけではなく、自主学習でも理解しやすくなっている。 ⑧ユニバーサルデザインフォントを使用している。常用漢字以外には全てふりがなを付記して、多様な生徒の学びを保障している。 ○見開きページに1単位時間として、その中に『見つける』『課題の解決』『広げる』というステップで学習の流れに沿った配置がされているため、生徒が見通しを持って学習に取り組みやすくなっている。	①「課題をつかむ」「身につける・考える」「まとめる・ふりかえる」という構成になっており、学習の見通しを持って、興味・関心を高めながら生徒同士で関わり合い、深い学びにつながるような工夫がなされている。 ②関連する内容が他教科にある場合は、「関連」「他教科」マークをつけて示されており、知識や情報を関連させながら、教科等横断的に深く学ぶことができるよう工夫されている。 ③グループで話し合ったり、発表し合ったりして学びを深める課題が随所に設けられ、言語活動の充実にもつながる内容となっている。 ④体育理論では、特集資料でスポーツの歴史・新たなスポーツの形の紹介やオリンピック・パラリンピック競技大会を取り上げ、スポーツを通じた文化について、興味関心が持てるように工夫している。 ⑤「リラクセーションの方法」や「心肺蘇生法」「止血法、包帯法、固定法」など、実際に体を動かして身に付ける内容を、「実習」として、写真とイラストでわかりやすく解説している。 ⑥各章の扉では、小学校で学習したこと、中学校で学習すること、高校で学習することを明示し、系統性のある指導ができるように配慮している。 ⑦デジタル教材により動画を視聴することができるようになっている。また、教科書と同じイラストを使ったナレーション入りの動画もある。 ⑧ユニバーサルデザインフォントを使用している。重要語句である、本文中の太字やキーワードにはふりがなをつけている。 ○導入部分で学習につながる気付きや思考を促す問いかけにより、本時の学習課題を確認することができる。学習のまとめでは、選択制のクイズや学習内容に関連する情報を調べることのできるウェブサイトも載っている。
（イ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①学習指導要領の系統性を踏まえた配列になっており、生徒の発達段階に即した内容になっている。 ②配色及びデザインは、色彩デザインの専門家に校閲を依頼し、ユニバーサルデザインの観点から全ページ検証を行っている。また、UDフォントを使用して可読性を高めている。 ③教育漢字以外には全てふりがながついている。グラフには、引き出し線で説明を付記している。	①学習指導要領の系統性を踏まえた配列になっており、生徒の発達段階に即した内容になっている。 ②ユニバーサルデザインフォント、カラーユニバーサルデザイン使用。線の太さやふちどりなど見やすさを配慮して作成されている。 ③漢字が読めないことによるのつまづきを避けるために、重要語句やキーワードには全てふりがながついている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①イラスト、写真、事例等の資料について、最新のデータを扱うなど信頼性があり、生徒が健康・安全について、自他の課題を発見し、解決することに役立つような工夫や配慮がなされているか。	①学習を広げるための手立てとして、興味関心を引きつける資料やQRコンテンツ（デジタルコンテンツ）が用意されている。QRコンテンツでは、「動画」「シミュレーション」「思考ツール」「資料・図鑑」「章末問題」など多様な用途に対応している。	①交通事故の実態と原因に関する資料では、死者数の割合や負傷者の割合がわかりやすくまとめられており、グラフの読み取り方も丁寧に解説されている。
	②生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか。	②「活用する」や、「広げる」では、学習してきた知識を活用して自分で考え、他者に伝えられるように配慮している。	②グループで話し合ったり、発表し合ったりして学びを深める課題が設けられている。言語活動の充実にもつながる内容となっている。
	③生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習活動の工夫や配慮がなされているか。	③多様性や共生、災害や感染症など社会の変化に応じた課題を取りあげているため、生徒の興味関心を引くように工夫がされている。また、スポーツの意義や様々な関わり方を紙面だけでなく動画でも紹介することで、生徒の理解が深まるようになっている。	③生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するために、これまでと今、さらに将来という段階に分けて、様々なスポーツの関わり方を紹介している。また、共生や多様性、スマートフォンによる健康被害など生徒にとって身近な課題を取り上げ、正しい情報を得ることができるよう工夫されている。

	発行者の略号	学研	
	書名	新・中学保健体育	
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	ウェルビーイング（生きる力、自ら学び、自ら考える力）の重視と、科学的認識と課題解決能力を身に付け、実生活の中で応用し、主体的に行動する態度の育成を目指して編集されている。	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①全項目に、「まとめる・深める」または「実習」を設け、その時間で学習した知識をまとめたり、深めたり活用したりする学習活動ができるようにしている。また、ストレス対処や心肺蘇生法など身につけるべき技能にはマークを付し、イラスト写真を多く掲載し、分かりやすい工夫をしている。 ②各単元に「課題を発見」、「エクササイズ」、「学びを生かす」の項目が設定され、課題解決に向けた取組が段階的にできるように配慮している。 ③日常にある小さな気づきや疑問を掲載し、主体的に捉えることができる。また、写真や資料、コラムにより、生徒が学ぶ内容にイメージを持って取り組むことができる。	
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	概ね内容をふまえている。	
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「ウォームアップ」（課題発見）→「学習の課題」（課題確認）→ 本文（学習内容の確認）→「エクササイズ」（課題解決）→「学びを生かす」（学びの活用）といった流れで成り立っている。 ②関連する内容が他教科にある場合は、「関連」マークをつけて示されている。 ③話し合う、記述する、表現するなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動を随所に設けている。主に協働活動を含む学習内容には、「協働」のマークを付している。 ④口絵を多く掲載し、伝統文化について学習しやすいように工夫している。特に、口絵6「行って、見て、学ぼう」など、様々な文化・情報が掲載されている。 ⑤「リラクゼーションの方法」や「心肺蘇生法」「きずの手当」など、実際に体を動かして身に付ける内容を、「実習」という章で、写真とイラストでわかりやすく解説している。また、デジタルコンテンツで動画を用いて学習ができる。 ⑥各章の扉で小学校、中学校、高等学校の学習内容を見通すことができるようにし、小・中・高の系統性を踏まえた内容である。 ⑦デジタルコンテンツにより動画を視聴することができるようになっている。また、シミュレーション教材によりロールプレイングをサポートする教材がある。 ⑧ユニバーサルデザインフォントを使用している。グラフや図では、線種を変え、色以外で判別できるように色覚特性に配慮している。 ○ 1単位時間ごとに、導入部分で日常にある小さな気づきや疑問からスタートできるような発問を提示している。また、学んだ内容を活用して、課題を解決するための対話的な活動や実践的な課題が示されている。	
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①学習指導要領の系統性を踏まえた配列になっており、生徒の発達段階に即した内容になっている。 ②マークや配置を固定し、カラーデザインを統一することで見やすくしている。本文や見出しなどの書体には、誰もが判別しやすいユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすさや生徒の発達段階を考慮している。 ③理解しやすい平易な文章表現をしている。グラフでは、凡例ではなく、引き出し線で項目表示をしている。		
(イ) 教科・種目別の観点	①イラスト、写真、事例等の資料について、最新のデータを扱うなど信頼性があり、生徒が健康・安全について、自他の課題を発見し、解決することに役立つような工夫や配慮がなされているか。	①文章だけで示すのではなく、科学的に理解できるよう、図やグラフ、写真などの資料が盛り込まれている。また、各項目に「学習の課題」を設け、学習内容の明確化を図るよう工夫している。	
	②生徒が個人生活における健康・安全について科学的に思考し、判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できるような学習活動が取り上げられているか。	②章末に設定されている「探究しようよ！」の例や、学習の仕方を示すことなどによって、課題解決的な学習が展開されるようにしている。	
	③生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進する態度を養うよう、学習活動の工夫や配慮がなされているか。	③ウェルビーイングや多様性、新しい感染症など現代を生きる中学生の身の回りで起きている課題について取り上げている。また、毎時間学びを生かす課題が提示され、自分の生活と結びつけて考えを深めることができるようになっている	